

中小・中堅企業のサステナビリティ診断ツールの開発と実証実験、普及啓発

イベントの延べ参加者数	230人
イベント参加者の満足度	90%
活動の全体目標に対する達成度	95%



エコプロ 2015 シンポジウムでの基調講演

◆成果と工夫したポイント

●成果

①診断(SDD) ツール『認識編』『実践編』を完成させた。②エコプロ・シンポジウム(2014年、2015年)において公開した。③ワークショップ(2014、2016年)において普及啓発を実施した。

●工夫

①海外調達先を意識。②自動的にレーダーチャートに表示。③回答の負担感軽減のため質問数の絞込み。

課題

日本企業の海外進出が増えるにつれ、現地調達先でのCSRにかかわるトラブルも多くなっている。このため、サプライチェーンのサステナビリティ診断ツールを開発する。

目標

日本企業の主として海外調達先のCSRリスクを回避するため、サステナビリティ診断(デューディリジェンス)ツールを開発し、実証実験にて有効性を検証の上、シンポジウム・ワークショップにより普及啓発を図る。

活動内容

①企業インタビュー(延べ20社)、文献調査。②サプライチェーンのサステナビリティ診断ツール『認識編』及び『実践編』の和文版、英文版の開発。③国内延べ20社、海外3社において診断ツールの実証実験を実施。④エコプロダクツ2014及び同2015においてシンポジウム(延べ180名参加)を開催、ワークショップを2回(延べ50名参加)開催、普及啓発を図った。⑤学会誌に寄稿、活動報告書を作成した。



エコプロ 2015 シンポジウムでのパネル討論

達成できなかったこと

①特性を加味した診断ツールの開発までは至らなかった(研究開発時間の不足)。②当初想定した『商機編』については、構想段階にとどまり、ツールの開発までは至らなかった(研究開発時間の不足)。

今後の展望

診断ツールの当学会 Web へのアップとともに、広く普及啓発を図り、海外調達先でのCSRリスク回避に資する。